

地域密着型金融の機能強化の推進に関する
アクションプログラム（平成17～18年度）

「地域密着型金融推進計画」の進捗状況

平成17年4月～9月

大和信用金庫

当金庫では、平成17年8月に策定した『地域密着型金融の機能強化計画の推進に関するアクションプログラムの機能強化計画』についての、17年4月から9月までの期間における進捗状況を以下の通り公表いたします。

・平成17年9月期における当金庫の現況

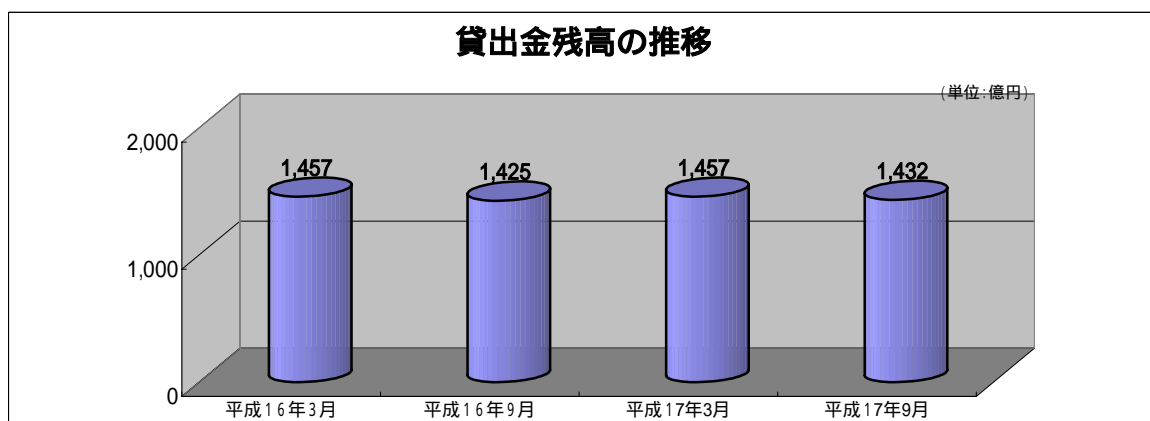
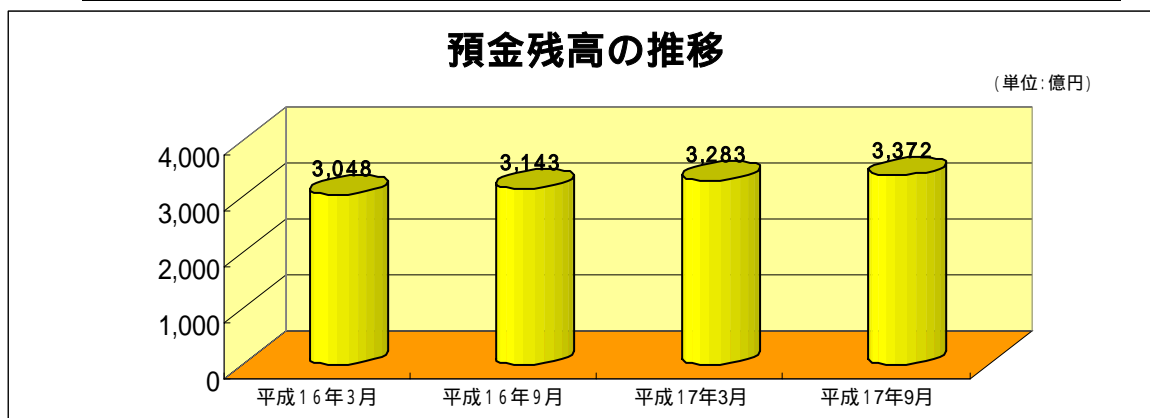
(1) 預金・貸出金の残高

預金残高の増加額は、平成16年度において235億円と当金庫創立以来最高となり、平成17年度上半期においても半年間で89億円の増加となっています。

しかし、貸出金残高については、平成17年上半期で24億円減少の1,432億円となりました。平成17年9月末現在の預貸率（お預かりしたご預金のうち、貸出金として地域のみなさまにご利用いただいている比率）は42.4%となっています。

（単位：百万円）

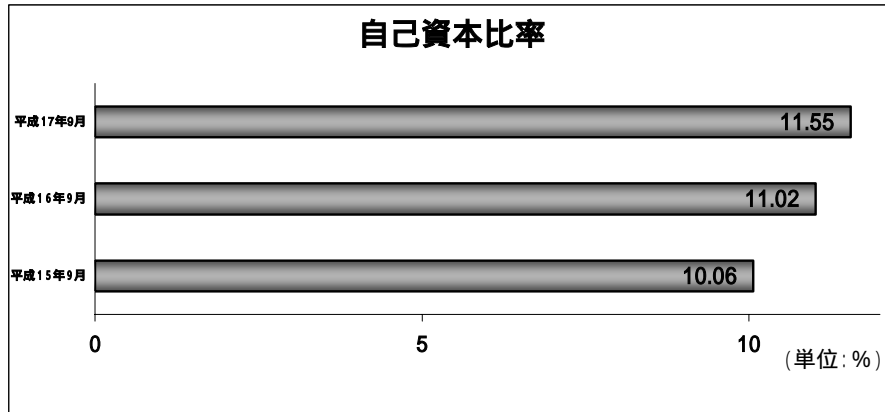
| <項目> | 16年3月 | 16年9月 | 17年3月 | 17年9月 |
|--------|---------|---------|---------|---------|
| 預金 | 304,837 | 314,337 | 328,344 | 337,276 |
| 貸出金 | 145,709 | 142,559 | 145,725 | 143,283 |
| 預貸率（%） | 47.79 | 45.35 | 44.38 | 42.48 |



(2) 自己資本比率

自己資本比率は金融機関の健全性を判断するポイントのひとつです。

当金庫ではリスクを適正に把握し、資産の健全化を図りながら自己資本の充実に努めてきた結果、平成17年9月末現在の自己資本比率は国内基準の4.0%を大きく上回る**11.55%**となっています。



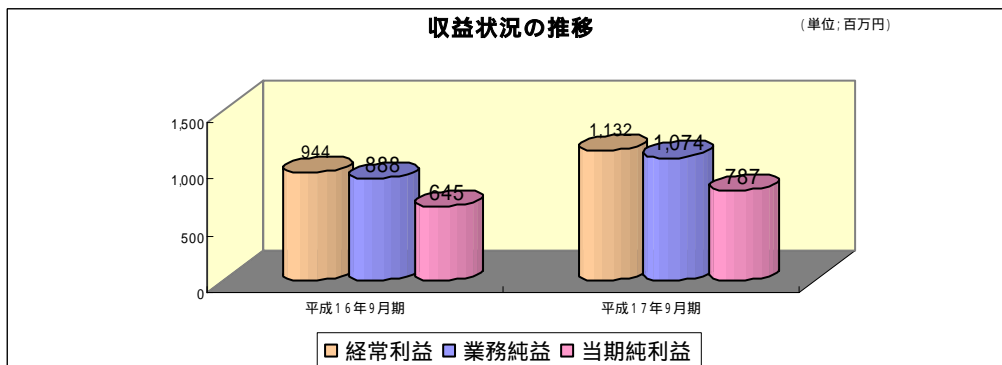
(3) 収益状況

平成17年度上半期の収益状況は、前期に引き続き有価証券などの運用が比較的好調であったこと、ならびに経費の削減により、前年同期（平成16年9月期）比で下記の通り増収増益となっています。

経常利益は、前年同期比188百万円増加の1,132百万円となりました。

業務純益は、前年同期比186百万円増加の1,074百万円となりました。

当期純利益は、前年同期比141百万円増加の787百万円となりました。



コア業務純益の推移

| | 平成16年度9月期 | 平成17年度9月期 |
|-------------|-----------|-----------|
| コア業務純益(百万円) | 660 | 840 |
| コア業務純益率(%) | 0.40 | 0.47 |

コア業務純益とは基本的な収益力を示す数値であり、業務純益から債券5勘定戻と一般貸倒引当金繰入額を控除した額です。コア業務純益率はコア業務純益額を総資産で除した比率です。

・アクションプログラムの重要項目（大項目）毎の進捗状況

信用金庫は、その本来業務であり使命とも言える融資を通じて、地域金融の円滑化を図り、地域経済を活性化させることに存在意義があります。

このことを信用金庫の原点と考え、当金庫は貸出金の増強を最重点目標とし、適正な対価負担を求めつつ、「融資に軸足を置いた質の高い金融サービス業」を目指したビジネスモデルを展開します。

そのために地域密着型金融推進のための機能強化に向けた土台作り、収益管理態勢の強化等、“経営の質”を重視した方向へと転換することを、平成17年度の経営方針としています。

今回の「地域密着型金融推進計画」においては、「選択」と「集中」を踏まえた計画を策定し、17年4月から9月においては、以下の通り取組んで参りました。

1．事業再生・中小企業金融の円滑化

(1) 創業・新事業支援機能等の強化および取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化

- ・目利き力養成、企業再生支援、融資渉外等の研修へ、スケジュール通り派遣。
- ・中小企業金融公庫との間で、企業再生関連の資金導入につき1件合意。
- ・「やましんビジネスセミナー」を2回開催。(テーマは“新入社員研修”“企業会計セミナー”)
- ・「税務」「法律」「年金」の合同相談開催の他、毎月「税務」「法律」「年金」の相談会を、各営業店巡回にて開催。

(2) 要注意先債権等の健全債権化

- ・17年度の財務支援対象先として19先(名寄せ後先数)を選定し、内5先を「財務支援室と営業店の共同支援先」、14先を「営業店単独支援先」に区分。
- ・総対象先40先の内、4先について経営改善計画書の策定を完了し、改善の進捗管理(モニタリング)に移行。
- ・内1先に対し、中小企業支援センターに「経営革新承認申請」の打診を行う。

(3) 担保・保証に過度に依存しない融資の推進

- ・担保・保証に過度に依存しない融資商品として16年12月に発売した「やましんビジネスローン『社長! どうですか』」について、17年度上期での実行が112件、398百万円(累計191件、761百万円)であった。
- ・奈良県商工会連合会および各商工会議所との提携により「会員サポート融資」として上記ビジネスローンが選定される。
- ・企業信用格付結果に基づく格付上位先への無担保・優遇貸出金利による融資商品「経営安定資金【本業無担保保証貸】」を発売、受付15先の130百万円であった。

(4) 顧客への説明態勢の整備、相談苦情処理機能の強化

- ・与信取引に関する顧客説明態勢の整備を行い、7月15日より新態勢を実施。

(5) 人材の育成

- ・目利き力養成、企業再生支援、融資渉外等の研修には、実施スケジュールどおり派遣し、中小企業診断士の資格取得候補者2名は、17年8月の1次試験を受験し合格。

2 . 経営力の強化

(1) リスク管理態勢の整備・充実と収益力の向上

- ・19年3月末からの新自己資本比率規制(パーゼル) 導入に備えての情報収集および新基準での試算を行う。
- ・信用コスト控除後の貸出金利息の概念を、店別決算に導入。

(2) ガバナンスの強化ならびにコンプライアンス態勢の強化

- ・利用者の声を経営に反映すべく、アンケート実施の準備を行う。
- ・コンプライアンス関連の研修会を、延べ32回開催する等、意識の向上を図る。

(3) IT戦略的活用

- ・統合ネットワークについて、本部・営業店の工事を9月中に完了し、9月に2カ店の試行を開始。

3 . 地域の利用者の利便性向上

(1) 地域の利用者の利便性向上

- ・利用者満足度向上に向けたアンケート調査の準備。

(2) 地域貢献に関する情報開示、ならびに経営内容に関する情報開示

- ・顧客配布用リーフレット「平成16年度(17年3月期)決算速報」調製
- ・7月、ミニディスクロージャーおよび平成16年度版のディスクロージャー誌発刊。
- ・桜井市内一斉清掃活動が新聞に掲載、子育て応援預金「ANGEL PLUS ONE」がNHKの全国放送にて放映される等、マスコミ媒体による情報開示がなされた。

4 . 今後の課題

次に掲げております<地域密着型金融推進計画における数値目標の進捗状況>の通り、自主的に定めた数値目標に対する進捗状況にもばらつきがありますので、17年10月からの半期における推進が重要となります。

個別の項目では、担保・保証に過度に依存しない中小企業向け貸出金実行額等は概ね目標通りに推移していますが、企業再生支援への取組みや内部格付け制度の構築等、取組みが遅れている項目もありますので、更なる強化が必要と考えています。

現在、利用者満足度の向上に向けてのアンケート調査を実施し、集計・分析の上、“経営の質”の改善を行うこととしています。さらに、経営力の強化、収益力の向上に向けた戦略を打ち出すべく、業務改革委員会を更新して、18年度からの新3カ年計画の準備を行っています。

これからも「やましん」は地域社会の発展を目指して、地元のみなさまに信頼され、親しまれる信用金庫としてその使命を全うするため、役職員一同頑張ってまいります。

以 上

【地域密着型金融推進計画における数値目標の進捗状況】

| <数値目標設定項目> | 16年度 | <実績> | | | <数値目標> | | | (単位：百万円) |
|---------------------------------|-------|--------|-------|-------|--------|--|--|----------|
| | | 17年9月期 | 17年度 | 18年度 | 推進期間計 | | | |
| 事業性貸出金増加額 | 2,915 | 783 | 4,500 | 5,000 | 9,500 | | | |
| 事業性貸出金残高割合(%) | 61.4 | 61.9 | 62.5 | 63.7 | | | | |
| 預かり資産増加額 | 135 | 1,153 | 2,000 | 3,000 | 5,000 | | | |
| コア業務純益額 | 1,390 | 840 | 1,707 | 1,900 | | | | |
| コア業務純益率(%) | 0.42 | 0.47 | 0.48 | 0.52 | | | | |
| ランクアップ取組み先数(先) | 20 | 19 | 19 | 19 | 38 | | | |
| 担保・保証に過度に依存しない 中小企業向け貸出金実行金額 | 363 | 527 | 1,000 | 1,000 | 2,000 | | | |

事業性貸出金増加額.....信用金庫の本業である地域金融の円滑化を図るため、個人向け以外の貸出金の増加額を目標とし、中小企業向けの事業性貸出金を中心として増加を図ります。

事業性貸出金残高割合.....総貸出金に占める、事業性貸出金の割合です。

預かり資産増加額.....現在取扱中の個人年金保険に加え、17年10月から取扱を開始する投資信託を中心に、お客様の資金運用ニーズに応えます。

コア業務純益額.....新3ヵ年計画「やましんチャレンジ21」における目標である17年度におけるコア業務純益額17億円を達成し、18年度には19億円を達成します。

コア業務純益率.....コア業務純益額を総資産で除した比率です。

ランクアップ取組み先数...財務支援活動を引き続き充実させて、企業業績の良化を図り、
(名寄せ後先数) 債務者区分の引上げに繋げていきます。

担保・保証に過度に依存
しない中小企業向け貸出

金実行額.....やましんビジネスローン「社長！どうですか」を中心に、担保や保証に過度に依存しない貸出金の増加を図ります。

以上